

第27回HLA-QCワークショップ・アンケート調査結果

アンケート集計結果について

前回（26thQCWS）での集計結果と今回（27thQCWS）の集計結果を比較した。

表中の（ ）内の数字は有効回答数を示す。

また、各設問において最多回答になるなど注目すべき点については黄色のマーカを付加した。

全体を通して回答内容の傾向は前回と同様であったが、サンプル選択及び結果提出方法への提案については、その大部分が抗体-QCに関するものであった。それらについては早急に精度管理委員会内で協議し、具体的な改定案を策定する予定である。

なお、自由記載欄への意見等はすべて精度管理委員会内で共有するものであるが、回答者の同意を得た場合においてのみ公開するものである。

Q1. あなたについてお聞かせ下さい

Q1-1. 日本組織適合性学会の会員ですか？	26th(192)	27th(180)
①はい	98.4%	96.7%
②いいえ	1.6%	0.3%

Q1-2. あなたの所属組織は？	26th(192)	27th(180)
①病院	60.9%	66.1%
②血液センター・検査センター	20.3%	17.2%
③大学（研究機関）	5.2%	3.9%
④企業	12.0%	11.7%
⑤その他	1.6%	1.1%

Q1-3. あなたの職種は？	26th(192)	27th(180)
①実務者（検査担当者）	83.3%	88.3%
②医師・獣医師	1.6%	2.8%
③コーディネータ・テクニカルサポーター	3.1%	1.1%
④研究者	11.0%	6.1%
⑤その他	1.0%	1.7%

Q1-4. HLAとの関わりは？	26th(192)	27th(180)
①1年未満（今後担当を含む）	4.2%	1.7%
②1-5年	26.0%	28.9%
③6-9年	27.1%	32.8%
④10年以上	42.7%	43.3%

Q1-5. これまでのQCWS参加歴は？	26th(192)	27th(180)
①今回が初めて	6.3%	5.0%
②2-5回	34.3%	35.6%
③6-9回	32.3%	32.8%
④10回以上	27.1%	26.7%

Q1-6. QCWへの参加目的（複数回答可）	26th(192)	27th(180)
①認定資格を得るため	84.4%	85.6%
②検査情報取得	68.8%	76.1%
③精度管理	84.4%	82.8%

注目点

Q2. DNA-QCについてお聞かせください

Q2-1. 今年度のDNA-QCへの参加は？	26th(192)	27th(180)
①参加した	81.2%	81.7%
②参加していない	18.8%	18.3%

Q2-2. DNA-QCの開催回数については？	26th(192)	27th(180)
①ちょうどいい（1回/1年）	94.3%	97.8%
②少ない	0.5%	1.7%
③多い	0.5%	0.6%
④無回答（不参加のため不明含む）	4.7%	0.0%

Q2-3. サンプル数については？	26th(192)	27th(180)
①ちょうど良い（4本）	88.5%	94.4%
②多い	6.3%	5.6%
③無回答（不参加のため不明含む）	5.2%	0.0%

Q2-4. サンプルとして今後使用して欲しい	26th(192)	27th(180)
①これまで通りのサンプルでよい	93.2%	98.3%
②その他	1.0%	1.1%
③無回答（不参加のため不明含む）	5.8%	0.6%

サンプルの具体的な提案 【DNA】

・外国人HLAタイプのDNA

サンプルの具体的な提案 【抗体】

- ・弱反応の血清があってもよい
- ・サンプル選定時に各試薬での反応性を確認していただけたとありがたい。
- ・試薬によって異なる判定になる試料は避けてほしい
- ・非特異的な反応や自然抗体が疑われる場合他施設の判断基準や追加検査方法等が知りたいので、そういったサンプルがあっても良いと思いました。
- ・アソシエイト抗原の特異性とその判断を明確にすることが必要かと思えます。
- ・弱陽性の検体も含まれていてもよいのではないかと思います。
- ・非特異反応の認められる検体。
- ・判定に迷う検体を追加して欲しい

Q3. 抗体QCについてお聞かせください

Q3-1. 今年度の抗体QCへの参加は？	26th(192)	27th(180)
①参加した	80.7%	80.6%
②参加していない	19.3%	19.4%

Q3-2. 抗体QCの開催回数については？	26th(192)	27th(180)
①ちょうどいい（1回/1年）	98.5%	98.3%
②少ない	0.5%	1.1%
③多い	1.0%	0.6%

Q3-3. サンプル数については？	26th(192)	27th(180)
①ちょうど良い（4本）	90.6%	92.8%
②多い	4.7%	1.1%
③無回答（不参加のため不明含む）	4.7%	6.1%

サンプルとして、今後使用して欲しいも	26th(192)	27th(180)
①これまで通りのサンプルでよい	92.2%	93.3%
②その他	1.0%	5.6%
③無回答（不参加のため不明含む）	6.8%	1.1%

Q3-5. 抗体部門の結果提出方法（判定方）	26th(192)	27th(180)
①抗体有無のみで良い	15.6%	13.3%
②抗原別判定のみでよい	10.4%	9.4%
③アレル別判定のみで良い	4.2%	8.3%
④抗原およびアレル別判定の両方が必要	62.0%	63.9%
⑤現状通りで良い	0.5%	0.6%
⑥その他	1.0%	1.7%
⑦無回答（不参加のため不明、わからず）	6.3%	2.8%

結果提出方法の具体的な提案

- ・データが適切に取れているかと判定が適切にされているのかを分けて考えた方が良いかと今回の乖離を見て感じました。
- ・マッチングを抗原レベルで行っている分野もあると聞きますので、抗原別およびアレル別の両方が必要と考えますが、回答の前条件（推定アレルに限るなど）の設定と明示が必要だと感じています。
- ・現状は抗体有無の判定しか実施していないが、新検査法の導入により詳細な精度管理が必要になる可能性がある。

Q4. その他（QCWSについてお聞かせください）

Q4-1. QCWSへの参加により検査精度向上に役立っていますか？	26th(192)	27th(180)
①はい	99.0%	95.6%
②いいえ	1.0%	4.4%

Q4-2. 検査精度に問題がある場合、学会からの指導を希望されますか？	26th(192)	27th(180)
①はい	85.4%	82.8%
②いいえ	14.6%	17.2%

Q4-2. 検査精度に問題がある場合に、学会からの指導を希望する際の方法（複数）	26th(192)	27th(149)
①メールによる指導（メールでは解析しない場合に対面やWEBも含む）	64.0%	58.4%
②電話による指導	0.6%	4.7%
③書面など記録が残る方法	0.6%	0.0%
④オンラインによる指導	34.8%	36.2%
⑤集会で、あるいは、状況に応じて	0.0%	1.3%

Q4-3. 今後もQCWSに参加されますか？	26th(192)	27th(180)
①今後とも参加したい	99.5%	98.3%
②今後参加したくない	0.5%	1.7%

Q4-5. QCWS集会の開催方法について	26th(192)	27th(180)
①今回と同じようなWEB形式が良い	63.6%	-
②ハイブリッドが良い	3.1%	86.7%
③どちらでもよい	7.3%	5.6%
④参集形式が良い	25.0%	7.8%
⑤その他	0.5%	0.0%
⑥無回答	0.5%	0.0%

第27回HLA-QCワークショップ・アンケート調査結果

<その他要望など自由記載>

毎年お伝えしていますが、抗体判定はアレル別のみで良いと思います。抗原別を続けるのであれば、多数決ではなく学会としての判定指針を示していただきたいと思います。

抗体解析について、前述したとおり、データが適切に取得できているかと、判断が適切にされているかを分けて考えるようなことができると良いかと感じました。

抗体QCの評価について、supplementやExplexでの使用が評価の減点にならないように改善を希望します。

抗体QC評価法について今後議論されるようですが、検出技術を判断する部分（試薬別、機器別、アレル評価、等）と、検査結果の考え方を判断する部分に分けてご検討いただきたいと思います。

抗体検査の評価が使用している試薬に影響を受けない形に変更いただくことを検討していただけますと幸いです。タイピング結果の記載方法のルールがホームページに掲載されていることは承知しておりますが、理解が難しい部分もございますので、実例を示していただきながら解説いただく機会を設定していただけますと幸いです。

抗体検査の判定基準の再検討

抗体部門の評価方法について議論されていることと思いますが、試薬差により判定の正誤が生じるのであれば、試薬毎に評価していただきたく存じます。QCWSは精度管理調査のため、いかなる理由であっても減点された場合は是正等を考察する必要があります。また、抗体試薬中に該当抗原ピーズが含まれないことで検出できない場合があるかと思えます。このような抗体が検出されるべき抗体とお考えのようでしたら、学会として各メーカーへ最低限含有すべきピーズなどを要望していただけますと幸いです。施設によっては複数の試薬を所持することが様々な理由で困難と考えますのでご検討ください。

今回学会中に議論がありましたようにQCWSの判定（採点）基準やQCWSの方向性については是非広くかつ迅速に議論いただければと存じます。QCWS集会の開催形式につきましては、やはりWebは質問しにくい雰囲気があるので現地開催メイン（遠方等はWebも可として）の方がよろしいかと思えます。例えば現地に小林先生のような方（以前であれば佐治先生が）がいらっしゃれば質問されているはずです。シンポジウム4のような討議をQCWS集会でもすべきです。また、QCWS集会に限りませんが、例えば各施設でepletをどう判断して具体的に脱感作を行っているのか、これも学会の場で討議すべきです。検査担当者が出した結果が実は臨床の場でこのように判断されているということ、臨床医は検査技術者がこのように（苦労して）結果を出していることを互いに理解し、より良い実臨床につなげていくことに学会として寄与すべきです。その方が臨床医がこの学会に参加することにつながると思います。

抗体QC：使用試薬によって判定結果が異なってしまうことについて、判定基準を見直して頂けるといことで本当にありがとうございます。

抗体QCについて、試薬によって反応性が分かれた場合に、どの試薬の結果を最終的に採用したのかを明確に記載する欄が無かった気がするので、記載欄があっても良いかもしれない

抗体検査のLABScreen Single+SupplementやExplexにおける評価は実施施設のみでの集計・評価で良いと考えます。

測定法別、試薬別詳細な解析を継続お願いします。

QCWS担当の皆様、大変な業務をどうもありがとうございます。すでにご検討中の内容もあるかと思いますが、要望を挙げさせていただきます。抗体QCですが、抗原別で判定する場合、アソシエート抗原をもとの抗原に含めた場合正解となるのかについて、コメントが無かったように思います。コンセンサスリザルトとして陽性か陰性かの判断のみならず、「このアレルはアソシエート抗原なのでこのように考えてください」、など、DNAQCの表記法についての解説のように、アレルと抗原型、アソシエート抗原の扱い方などについてもご教示頂けたら良いのではないかと思います。（例えばDR1403をDR14として考えたかどうかによって、同じ反応性でもDR14に対する判定が分かれたかと思えます。）試薬によって含まれるアレルが異なることによる判定結果の違いについては以前から気になっていました。シェアが高い試薬が正解になってしまいます。ご検討宜しくお願い致します。

学会・集会内でも触れられていましたが、採点基準や評価方法を更新して頂けると良いかと思えます。

結果の採点方法について：解析の際に施設により考え方が異なる判定・・・と出てきます。そのような場合でもコンセンサスから外れると減点されるのでしょうか？今後、採点法を検討されるとのことなので、間違えてはいない結果を減点しない方法で検討してもらいたいです。

標準化について強化してほしい

他施設の結果との比較で自己の精度や手技、理解度の向上になっています。

一方的な報告ではなく、参加者とディスカッションできる時間があつた方が良いと思います。例えば配布サンプルから考えらえるエピトープについてなど。

詳細な解析をしていただきありがとうございました。

業務の都合上、今後もWEB配信の継続を望みます。

今後も現地参加とWEB参加のハイブリット方法を希望します。

復習できるようにアーカイブ配信があればいいです。

試料発送について、可能であれば到着予定日を知らせて頂けると助かります。

結果に対する臨床の要望を反映させてほしい

データ入力方法の手順書を作成して頂きたい。

詳細な解析をいただき、ありがとうございます。解析作業はとても大変であり、ご苦労が多いと思います。解析データは貴重なデータとして拝見いたします。

ありがとうございました。沢山勉強させていただきました。

メールのタイトルに、代表者宛か参加者各位宛か明確にわかるようにしていただけると、助かります。